

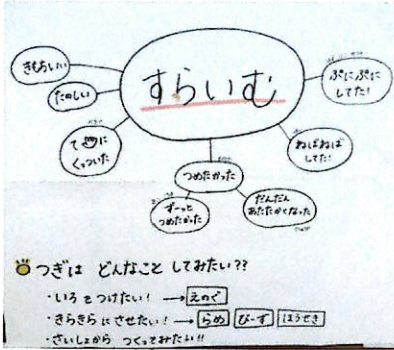


さゆりっ子

No.3

文責 若林一成

「楽しい」がつながっていく



かな組が取り組んでいる「すらいむと遊ぼう」の活動を追ってみました。

<第1弾> 先生が紹介してくれたスライムに飛びつくようにして見たり、触ったりした子どもたちからは嬉々とした声が聞こえてきました。

触った感じ、体感温度、音、伸びる特性等々、五感を通してたつぷりとスライムのおもしろさを知ることができました。

「次はどんなことしてみたい？」子どもたちの興味、関心を更に広げ、やってみみたい気持ちを引き出していききたい担任の気持ちが伝わっている問いかけでした。

「色を付けてみたい」「キラキラさせたい」と今まで出会ったスライムを思い浮かべて、先生が用意した“透明”のスライムを変えたい、「最初から作ってみたい」と意欲的な言葉も出てきました。

<第2弾> さあ、「すらいむ作り」当日。

- 魔法の水（洗濯のり+水）に食紅で色を付ける。
N・IさんとペアのU・Aさんも徐々に染まってくお水の様子を楽し気にのぞいていました。
- パレットに色のついた魔法の水を移し、もう一つの魔法の水（ホウ砂+水）を加える。

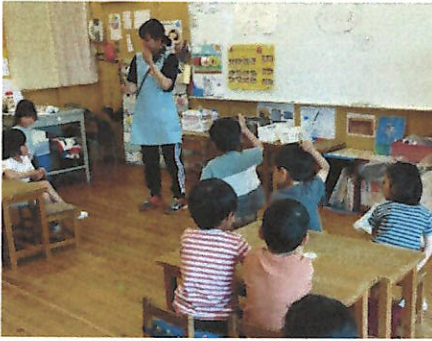


ドロン、ドロンとスライムのように becoming していくのを見て果敢に手を入れていくN・Iさん。U・Aさんはなかなか触ろうとはしていません。“どうしたのかな？”と思っていると、U・Aさんは先生からお水を入れてほしいと頼まれました。コップ1杯の水をパレットに入れたとたん、U・Aさんも両手を入れてどんと遊び始めました。私はその姿にびっくり! どうして、今まで指一本も触れなかったのに? 『お水を入れる』という自分なりのかかわり

を持てたからでしょうか、慎重に行動したい思いから一気に変わったのでしょうか、どちらにせよ、その変身ぶりには驚かされました。

ここからはお部屋全体が「先生、見て!」の連呼。次々に楽しいことを発見しては、お友だちに、先生に教え合う子どもたちの姿でいっぱいになりました。





「こんなに伸びるよ～」手をいっぱい広げても届かないくらいスライムが伸びたことをみんなに伝えたくて仕方がないU・Aさんはまとめの時間に先生から「どうだった？」と尋ねられると思わず席から前に出て行って、動作を交えて先生に伝えようとする姿がありました。

「すらいむを作ろう」に全力で取り組んでいるU・Aさんはかんな組さん全員の気持ちを象徴しているようで思わず応援したくなりました。

まとめでは「もっといろいろな色のスライムを作りたい」「他のクラスにも作り方を教えてあげたい」という声上がり、もっと面白くしたい思いが次の活動への原動力になっています。

<第3弾>



さて、この活動を見ていたお隣のすずらんさんの子どもたち。早速、廊下に並べられたスライムをのぞいたり、手を伸ばしてみたりと興味津々。もう「他のクラスに作り方を知らせたい」活動が始まりそうです。(その後、かんな組さんが先生役になってすずらん組、ひまわり組さんと一緒にスライム作りをやるという展開になってきています。)



「スライム」の3つの活動からは「子どもの思い」をつなげていく大切さを実感することができました。どの活動にもそれぞれちがった面白さがギュッと詰まっています。そして子どもたちの意欲をぐんぐんと引き出してくれていました。

おかげで活動が進む中で新たな子どもたちの素敵な姿をたくさん見つけることができました。

今後も『浸り込める活動』を探っていきたいです。

ノーアウト 満塁 (6/21)

先週、地区対抗の野球大会があった。親睦も兼ねてとはいえ、“勝利”を目指して試合に臨んだ。

若手中心の相手とあっていきなり4点のビハインドとなったが、我がチームもピッチャーが落ち着くと3回には4点差を一気に追いつき、4回には1点ずつ取り合う接戦となった。5回を迎えると「制限時間1時間30分」から最終回となった。先攻の我がチームは「0点」。となると「引き分けかサヨナラ負け」の状況となった。

最後の攻防…四球、ヒットで無死1塁、3塁。私はここで満塁策を選択した。ベンチからは「ピッチャー、負けるな!」「守備は前、前!」の声が響き、1球々々審判のコールにもみんなが反応していた。次打者、ファーストゴロに間一髪のホームアウト。「OK! OK!いける、いける。」…次打者“3ボール1ストライク”から四球。5 - 6 サヨナラ負け。つまらない失策もなく、全員でまさに全力で戦った久しぶりのナイスゲームであった。

